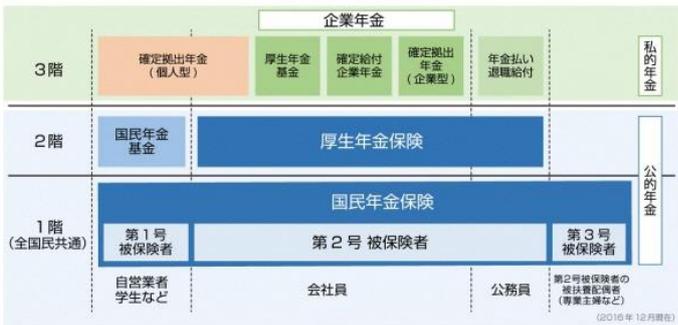


公的年金保険制度を題材としたモデル授業案（標準型：1 時間目）

○授業の目標

- ・ 人生にはさまざまなリスクが潜んでいることを理解する。
- ・ 社会保障がリスクに対して国民全体で支え合う制度であることを理解する。
- ・ 各自が必要と考える社会保障制度について考えを整理し、意見を構築する。

	学習内容	学習活動	指導上の留意点 (社会保障教育の視点) など
導入	人生 100 年時代のリスクについて考える	<p><u>発問：人生 100 年時代「長生きによる経済的リスク」はあるだろうか？</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分は何歳まで生きると思うか？ ・ 2050 年の平均寿命予測は？ ・ 高校生の平均寿命予測は？ <p>※ このまま医療技術の発達、遺伝子ゲノム解析、再生医療の進化などによって平均寿命が 100 歳を超えるという見方もある →発問から「長生きによる経済的リスク」を考察させる</p> <p>【資料】 内閣府 令和元年度 高齢者の経済生活に関する調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 仕事に関する事項 https://www8.cao.go.jp/kourei/ishiki/r01/gaiyo/pdf/sec_2_2.pdf ・ 経済的な暮らし向きに関する事項 https://www8.cao.go.jp/kourei/ishiki/r01/gaiyo/pdf/sec_2_3.pdf ・ 貯蓄、老後の備え等に関する事項 https://www8.cao.go.jp/kourei/ishiki/r01/gaiyo/pdf/sec_2_4.pdf 	大項目 B 「自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち」 主題：少子高齢化における社会保障の充実・安定化を想定

<p>展開 ①</p>	<p>公的年金 保険について理解する</p>	<p><u>発問：年金は高齢者のものだろうか？</u></p> <p>・「年金」と聞いてイメージする言葉は？</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【受講前の回答例】</p> <p>年をとった時にももらえるお金、でも私たちはもらえないかもしれないらしい。</p> <p>【受講後の回答例】</p> <p>公的年金は保険であり、みんなが助け合って、長生きに対する保障や、障害・死亡といった予測のできないことに備えられるようにするもの。</p> </div> <p>日本の社会保障制度の一つである社会保険の一つ、公的年金保険には老齢年金、障害年金、遺族年金の三種類があること、年金が高齢者だけのものではないことを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国民皆年金制度としての年金保険は、原則何歳以上から納め、現在ではどのような仕組みに基づいて支払いが行われているのかを理解する ・第一～第二号被保険者など、立場によって加入する年金が異なることを知る（発展的に第三号被保険者に関する問題を取り上げても良い）  <p>【資料】 厚生労働省 わたしとみんなの年金ポータル https://www.mhlw.go.jp/nenkinportal/chapter2/topic02.html#topic01</p>	<p>年金が高齢者のものだけではない発問からスタートしたい。</p>						
<p>展開 ②</p>	<p>公的年金の仕組みと特徴を理解し、その課題と解決策を考察する</p>	<p><u>発問：人口構造が変化する中で、持続可能な公的年金を目指すにはどうすれば良いだろうか？</u></p> <p>・現在の公的年金の特徴をまとめる。グループに分かれて持続可能な公的年金を実現するための課題を洗い出し、解決案をワークシートにまとめる</p> <p>【まとめ】</p> <table border="1" data-bbox="375 1780 1308 2016"> <tr> <td>国民皆年金</td> <td>20歳以上 60歳未満の全ての人加入</td> </tr> <tr> <td>世代間扶養</td> <td>現役世代が負担する保険料で受給世代を支える仕送りを社会化したもの（賦課方式）（賦課方式）</td> </tr> <tr> <td>社会保険方式</td> <td>加入者として保険料を納めることで、必要に応じて年金給付を受け取る</td> </tr> </table>	国民皆年金	20歳以上 60歳未満の全ての人加入	世代間扶養	現役世代が負担する保険料で受給世代を支える仕送りを社会化したもの（賦課方式）（賦課方式）	社会保険方式	加入者として保険料を納めることで、必要に応じて年金給付を受け取る	<p><u>その他発問案：公的年金は破綻するから未納でいいのか？</u></p>
国民皆年金	20歳以上 60歳未満の全ての人加入								
世代間扶養	現役世代が負担する保険料で受給世代を支える仕送りを社会化したもの（賦課方式）（賦課方式）								
社会保険方式	加入者として保険料を納めることで、必要に応じて年金給付を受け取る								

		マクロ経済 スライド形 式	現役世代の負担が荷重にならないよう保険料の上限を 固定し、長期的に給付を調整するしくみ	
		<ul style="list-style-type: none"> ・その他長期化する高齢期の経済基盤の充実を図るため、短時間労働者に対する被用者保険の適用拡大、受給開始時期の選択肢の拡大などに取り組んでいることを知る 		
ま と め	日本の人口 構造が公的 年金の課題 に関連して いることを 理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の公的年金は人口構造の変化によって多くの課題に直面しており、持続可能な公的年金を実現するために、国民全体の問題として考える必要があることを理解する 		

公的年金保険制度を題材としたモデル授業案（標準型：2時間目）

	学習内容	学習活動	指導上の留意点 (社会保障教育の視点) など
導入	自分の老後にどう備えるか考える	<p>発問：皆さんは、何歳までどのように生きたいか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前回の授業を振り返る ・ 老後って何歳から？現役と老後のイメージ？ <p>【資料】 内閣府 令和元年度 高齢者の経済生活に関する調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生きがい、健康状態、社会的活動に関する事項 https://www8.cao.go.jp/kourei/ishiki/r01/gaiyo/pdf/sec_2_1.pdf ・ 仕事に関する事項 https://www8.cao.go.jp/kourei/ishiki/r01/gaiyo/pdf/sec_2_2.pdf ・ 経済的な暮らし向きに関する事項 https://www8.cao.go.jp/kourei/ishiki/r01/gaiyo/pdf/sec_2_3.pdf ・ 貯蓄、老後の備え等に関する事項 https://www8.cao.go.jp/kourei/ishiki/r01/gaiyo/pdf/sec_2_4.pdf <p>→「老後」の生活といっても、前回学習したように人それぞれリスクがある。また、何歳までどのように生きたいか (will)、どのように生きられるか (can) ということも異なることに気づく</p>	<p>大項目B「自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち」 主題：少子高齢化における社会保障の充実・安定化、<u>金融の働き</u>などとも関連</p>
展開 ①	公的年金と私的年金保険について理解する	<p>発問：イメージした老後の生活費をどのように賄っていけばよいか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公的年金の役割・強みは何か。公的年金のほか企業年金・個人年金制度があるが、どう組み合わせたら良いか。 ・ 人生100年時代と言われる中、公的年金の役割・強みは何だろうか。（長生きへの「備え」「保険」であること、強みとしては将来の物価・賃金の伸びに対応していること、終身年金であることなど） ・ 一方で、公的年金は、人口構造の変化を受けて、現役世代の負担が過重にならないよう保険料を固定し、マクロ経済スライドによって給付水準の調整がなされている。このような中、政府は、企業年金・個人年金（イデコ）制度のほか、退職金共済制度やNISAなど様々な支援策を用意しているが、こうした仕組みをどう組み合わせるべきか。（多様なニーズに対応するために、企業・個人のニーズに応じて活用することも選択肢の一つであることなど。） 	

		<p style="text-align: center;">退職給付・個人資産形成</p> <p style="text-align: center;">○ 退職給付・個人の資産形成という視点で見れば、企業年金・個人年金制度のほか、様々な仕組みがある。</p> <p style="font-size: small;">※ 数値は、2020(令和2)年3月現在 ※ 1 第2号被保険者等とは、厚生年金被保険者のこと(第2号被保険者の数が、55歳以上で年金、または、退職後支給額とする年金給付の受給権を有する者を含む。) ※ 2 20～65歳未満人口は、6,986万人、人口統計(2020年3月調べ)</p>	
<p>展開 ②</p>	<p>老後のための 社会保障制度 はどうあるべ きか考察する</p>	<p><u>発問：老後のための社会保障制度はどうあるべきか（すなわち、公的老年年金制度をどのように考えるか）</u></p> <p>【ケーススタディ】</p> <p>どのような仕組みを持つ国に住みたいか？</p> <p>A：全ての国民に現役時代に得ていた所得の8割を保障するが、現役時代の支払いは 多い制度（共助）</p> <p>B：全ての国民に現役時代に得ていた所得の5割は保障されるが、残りはある程度 自分で備えるため、現役時代に自分の意思で貯蓄コントロールできる制度（共助&自助）</p> <p>C：全ての国民が一切の保障と支払いがなく、自己責任と伴う制度（自助）</p> <p>※ 高福祉・高負担、低福祉・低負担の4章限の図などを示し、 低負担・高福祉は財政上難しいことを理解する</p> <p>D：第四の道</p> <p>・選択した仕組みと理由についてグループ内で意見を共有し、発表する</p>	
<p>まとめ</p>	<p>これまでの 社会保険の 学習を振り 返る</p>	<p>・人生にはさまざまな「リスク」がともなうが、社会保障は社会全体の 支え合いであり、大切なお金をどう使い、どう負担するか、世代や立場 を超えて関心を持つことが重要であることを理解する</p>	